

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.5 労作時狭心症 とは

私、御手洗透、98kg。急性心筋梗塞になり棺桶に半分足を突っ込みながらも不死鳥のように復活した百貫デブ。右へ倣えで皆と同じことを同じようにしてきた。自分だけがなぜ死にかけなければならぬのか？いったい自分が何をしたというのか？あまりもの不条理に途轍もなく大きな暗闇に向かって問いかけている。

だが、聞くところによると、日本人の3.5人に1人は高血圧、4人に1人はメタボおよび65歳以上、6人に1人は脂質異常、8人に1人は糖尿病もしくは予備軍、10人に1人は肥満だそうだ。これらはすべて動脈硬化すなわち心筋梗塞・脳梗塞の予備軍らしい。自分は98kgの肥満、糖尿病に血圧も高く、悪玉コレステロールと中性脂肪も高いと言われていた。おまけにタバコまで吸っている…。なんと御手洗透、お前になるべくして心筋梗塞になったので

はないか。ジーザス。皆と同じことを同じようにして安心してたが…。ということは営業部の三島も総務の相原だって皆同じ予備軍ではないか。でも、あの日、あの時までは何もなかった。ん？そういえば1か月前から点滅する信号を走って渡った時何か呼吸がしんどかった。年の所為かと思っていたが…。

——そう、それが労作時狭心症なのです。普段以上に筋肉を使う場合には普段以上の酸素を筋肉に供給する必要があります。そのために心臓は普段以上の血流を送りだす必要があります。心臓とて筋肉の塊であるが故に普段以上の仕事をすれば普段以上の酸素が必要になる。ところが心臓の筋肉に血液を送る血管に動脈硬化ができてしまうと、血管が狭くなり十分な酸素を心臓の筋肉まで供給できなくなる。少なくなった酸素供給では心筋の酸素消費量が増加すれば対応できず心筋の酸欠状態になる。これが労作時狭心症なのです。さらに、危険なのは動脈硬化がはじめて血液の塊が生じ、血流を遮断してしまう状況なのです。これが急性心筋梗塞で生命の危険な状況になりかねないのです。——

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村 陽一